郷土史 ていね

第 46 号
平成 23 年 10 月 12 日
手稲郷土史研究会会報

第 65 回（平成 23 年 9 月 14 日）定例会の講演

「昭和 40 年代の手稲、バッタ塚の保存」

東京宅地㈱会長　　国岡茂夫氏

① 大浜別荘地の開発造成

平佐さんとの縁があり、この土地を 23 ヘクタール購入した。買った人が幸せになれる土地であり、海に近く別荘地として最適と確信し、第 1 次分として 250 区画を造成し販売した。道路の土地も手稲町に寄付した。

昭和 43 年に「都市計画法」が施行され、この別荘地が市街化調整区域に指定され、建物を建てることができなくなってしまった。土地はほぼ完売していたが、別荘を建てた人はまだいなかった。2 階へ上がったとたん梯をはずされた状態であった。この土地は後にゴミ埋立地として使われることになる。

② 石狩湾新港

近くに小樽市との境界がある。幅 1m ほどの小さな川である。当時の地図によると、すぐ近くに新銭函港の入れ口とする計画ができていたようである。これが石狩新港の原型であろう。いろいろな経緯があって現在の石狩湾新港になっているのだが、「港は小樽市の土地でなければならない」という小樽市の強い主張が通り、海岸線が細長く小樽市の土地になっており、石狩湾新港は石狩市ではなく小樽市なのである。

③ ゴミ捨て場（埋立地）

手稲町の発展とともにゴミ捨て場が必要になってきた。曲長線に面した土地 1 町歩あまりを貸してほしいと依頼される。これが手稲町の最初のゴミ捨て場であった。明日風団地の中に当たる。

手稲町が札幌市と合併し大量のごみ埋立地が必要になり、バッタ塚の土地 32ha に白羽の矢が立った。別荘地として分譲した土地を買い戻してくれとの依頼である。札幌市の予算は 3450 円／㎡であった。こういう土地は 4～5 年も経つと持ち主の所在がわからなくなる。持ち主を探し買い戻す作業は自社だけでは到底不可能で、帯広の業者と協同して 2 年あまりかかって買い戻し、札幌市に譲渡した。

このごみ埋立地は 4 層（4 階建て）になっている。土地の買収が進まず病むにやまれずごみの上に土をかぶせ、さらにごみを積み上げるという方式で高くなってしまった。現在は小樽側に用地を取得して埋立地にしている。

④ バッタ塚を寄付

別荘地を造成した時は、貴重な史跡バッタ塚があるとは全く知らなかった。北大の先生や札幌市の教育委員会からの依頼で、分譲地から外れていた約千㎡を即決で寄付をすることにした。

⑤ 国岡茂夫氏の横顔

徳島県出身、北海道に移住後不動産会社「東京宅地㈱」を設立、現在は同社会長手稲近郊のあちこちで宅地造成販売を進める。

札幌市徳島県人会会長を長年務め、現在は名誉会長。

中国駐札幌総領事館に無償で自社ビルを提供、以降中国との仏教文化交流を深める。

中国五台山の我眉山国際納経場を札幌に開設、「平等院太慈寺」を発足。

中国画廊を自社ビルに設置し、中国優秀新人などの作品を常設展示。

人形浄瑠璃「あしり座」（文楽）の後援活動、その他多彩な文化活動・社会貢献を続けておられる。

〔附記〕多岐にわたるお話でしたが、バッタ塚に関連する部分に焦点を当てて記しました。「新川公園団地」の話、また「社会活動・文化活動」のことは興味深いものがありますが字数の関係で割愛させていただきました。　（文責：永井道允）

第 65 回（平成 23 年 9 月 14 日）定例会の会員発表

「区内の河川に見られる生き物」について

新発寒　　鈴木玲氏

手稲に居住して、手稲山などを含め手稲の土地が現在のこのようになるまでに、どのような経過をたどってきたのだろう。そんな疑問に応えてくれる所を探している中で郷土史研究会に辿り着いた。

また、この手稲山でスキーやゴルフなどはするが、この郷土の自然をゆとりをもって観察しながら楽しむということは少ないのではなかろうか。

そこで、身近な自然を享受しながら我が郷土手稲知るために、「森を探検する」という趣旨で活動を進めているのが、「手稲さと川探検隊」である。

札幌は、自然が豊かで“住みたいところナンバーワン”と言われているようであるが、東京での生活経験からすると、札幌の街の中は東京よりも緑が少ないのではないかという印象である。そのようなことから、上記活動を行うには、街中でない方がよいと考え、手稲地区を活動拠点とした。

円山動物園で「地球を考えよう」という催しものやったときに、子供たちが自然の生き物に接していないことを実感した。それから自然観察を体験させる活動を始めた。

2004 年 7 月 31 日に、チラシをもってラジオ体操の会場へ行き、「自然観察をやろう」と PR をしたところ 20 人ほど集まった。現在、地域親子主体で、スタッフ 9 人、学生 3 人で活動している。

手稲山の北側、新川、中の川、三樽別川、星置川などは生き物がいっぱいいるところである。また生物層が豊かである。したがって、そこを主たる活動場所としている。

私は種屋にいて自然植生復元（壊してしまった自然を元の森に戻す）という仕事を主にしているので、種を採るのは面白く、その芽が出るのを観察するのはドキドキする。植樹なども行っている。稲雲高校の裏手でエゾモモンガを見つけたこともある。

冬場は野外活動に代わるものとして、人形劇団の団員の方に協力していただいて、森で拾った部材で作ったマリオネットを使って寸劇をやってもらい、その鑑賞会を行う。

小学校での総合学習も手伝っている。

手稲探検ツアーなどもやっている。10 歳の子供たちに 10 年後の手稲というテーマで絵を描いてもらい、入選した子供を、手稲鉱山のような縁（ゆかり）のある場所を見学しながら、川の生き物を観察するというものである。

豊平川さけ科学館を見学したり、模型実験も行った。去年、応用生態工学会全国大会が行われた際に、川が汚れていく過程を実験で見せてもらった。

地形に関する話を地元手稲でしていただき、

　生き物はどのような所にいるのか？　生息できる環境はどういうところか？　それを人間はどう変えてきたのか？

ということを自分の目で見ながら、これからどうしていったらいいのか、また私たちは何をすべきか、ということを考えるきっかけにしている。

どこにどんな生き物がいるのかという調査活動も行い、ガイドブックや図鑑を作っている。

森に入ると気持ちがよく、心が癒される。森林療法をやっている人もいるようで、植物園で、森林浴、気功などを行って、木のパワーを感じる体験もしている。特に大きな木はパワーを感じる。

アイヌ文化に触れようということで、アイヌの伝統食を作って食べるという体験もした。

現地を歩きながら、郷土の地質の変化を学習するとともに、地形が変化していく過程（例えば扇状地が形成される様子）を確かめる実験も行った。

いまカエルの生息状況を調査中である。カエルが“いまいるところ”、“以前いたところ”、“それはいつまで”、“なぜいなくなったのか”といった情報を収集中なので、知っている方は情報提供してほしい。

「手稲さと川探検隊」の活動は親子主体でやっていますが、共に楽しもうというのがねらいです。子供たちにインタビューをしてもらって、情報を収集し、それをヒントに生物と共存するよい環境づくりために、私たちは何をどうすればよいのか、子供たちと一緒に考え、その解決策を見いだしていこうと思っています。子供たちが伺った折にはご協力をよろしくお願いします。

（文責：小田真二）

次回の予定

次回（11 月 9 日）は会員発表で、平木重雄氏の「満州の荒野を駆け巡り～自分史～」と、林俊一氏の「手稲鉱山の現況」を学習する予定です。

会場は、視聴覚室です。

伊達、洞爺、留寿都を一巡

郷土史研２９人、絶景バスの旅

伊達市、洞爺湖町、留寿都村を一巡コースにした手稲郷土史研究会（國井和夫会長）の一泊研修視察旅行は、９月２７、２８の両日、貸切バスで実施しました。台風一過の両日は、絶好の好天に恵まれ、茂内義雄副会長、上仙学事務局長の視察先との詳細な事前打ち合わせが奏効、どこでも説明員が待ち受けてくれる手際の良さで、参加者を感動させました。それにも増して、配付された分厚い資料は、参加者が知らなかった、忘れていた数々のデータが示され、あるいは視察現場でも未公表の事実まで披露され、ごくありふれた観光ツアーとは一味も、二味も違う実り多い旅になりました。（文・一ノ宮）

★動き出したら、すぐ「先生」登場

大型バスは、釣本峰雄会員の手配で、石狩市のヒルズ・カンパニー（有）から。午前８時３０分出発。高速道路を一気にスピードアップ。ガイド代わりの「先生」がさっそく登場した。もっとも、本物の先生だった人だけに、よどみない説明が続き、このあとも車内を笑声のるつぼに変えながら、講師がつぎつぎ立ち上がった。

＝ 車中講師一覧、標題は筆者が勝手に（敬称略）＝

車窓から見える道央の山々	菅原　直（前　田）
室蘭本線と SL の思い出	佐藤　亘（前　田）
白鳥大橋、室蘭焼き鳥の味	立花　邦雄（新発寒）
近代化進む本道酪農のいま	村元　健治（星　置）

★足下に未公開のシカの頭骨も

□史跡・北黄金貝塚遺跡

驚くほどの貝の堆積物。その下からシカの頭骨二個。まだ、公表されていないという。獣骨、魚骨も多数発掘している。付近に加工された生活用具とみられる石片がいくつも。古代人の生活の場？ゴミステーション？夢はウズを巻くように湧き上がってくる。

□　だて歴史の杜公園

▼亘理伊達家開拓記念館▼宮尾登美子文学記念館

伊達家３３代、亘理家１５代の系譜。あなたは先祖を何代語れる？直系が市役所職員にいるという。当別では、直系職員を「トノ」と呼ぶと「なんだ」と答えるという。

宮尾登美子は８５歳になった。直筆原稿見たかな？

□　バチェラー教会堂

バスがやっと入る細い道のわきに。噴石で建てた堅牢な建物。常時使われていない。見上げる高さの正面玄関先で記念撮影。有形文化財。布教活動のかたわらアイヌ語研究に尽くした。

□　善光寺宝物館

４月完成した。塩分の多い湿気を防ぐため二重の出入り口。鎌倉時代の木彫「釈

迦如来立像」、「念仏上人画像」などが著名。道有形文化財、国の重要文化財のほか一切経（２３００巻）収納庫など。１９代住職の妻で副住職の真理さん説明。本堂前のオンコの木に芽吹いたサクラが大きく育って、オンコは枯れていた。

★カラオケのノド、なかなかの人ばかり

□洞爺観光ホテル

洞爺駅で２人下車。噴火跡を見ながら洞爺観光ホテル着。どっと修学旅行の高校生。一風呂浴びて夕食。カラオケの定番。臆することなく出演者多数。が、なかなか心得た人ばかりと見た。終わって、湖上の花火観覧。その後、また研修という。

テーマはと思いきや、戦争と平和、婚活、北方領土など話題多彩。北方領土はアイヌ民族に引き渡せとの大胆提言もあって盛り上がる。話題に興味のない人はコクリ、コクリと舟をこぐ。

★なんといってもサミット会場

□洞爺湖ビジターセンター・火山科学館

朝９時出発。足元の地図を見ながら大自然の変革に驚嘆。金毘羅火口災害遺構散策路を一巡。あれを見た、これもあったと評論家ばかり。すっかり地形が変わっていた。ジオパーク、「地質遺産公園」と訳すそうです。

□　ウインザーホテル洞爺

アポなし訪問は追い返されるだろうとの予測と裏腹に「さあ、どうぞ」。さすがサミット会場だけに、その創りにびっくり。ピアノとフルートの生演奏中。ひたすら廊下を歩き続け、湖面の見える展望台で記念撮影。コーヒー１０００円とか。一泊３万円からご用意できますとボーイ。

□　田中篤之助牧場

手稲から移転した塩野谷牧場の売店でソフトクリーム。米田牧場、廃校の花和小を見ながら田中牧場へ。乳牛１５０頭、１００ｈａの牧場。参加者の頭では想像つかない規模。母牛が乳が張りだすと次々に搾乳場に現れ、終わると勝手に牧舎に帰るフリーストール方式が近代牧畜の主流とか。田中さんは東京新宿歌舞伎町の出身。春に行って見たが、韓国人の街に変わっていたという。

スイカをごちそうになる。

□　きみちゃん母思像

喜茂別村役場から平民社農場、村政要覧など分厚い資料。「赤い靴」の野口雨情を思い出す。

オープンした道の駅「ルスツ２３０」に娘の行く末を案ずる母をイメージした「開拓の母」像、

指圧の心、母心の「浪越徳次郎」像も。

中山峠、定山渓、朝里峠を経由、手稲区役所帰着。会費は１万３０００円。お疲れさまでした。